

学校法人昭和薬科大学 中期計画(2025～2029年度)

A Challenge for the 100th Anniversary:

Showa Pharmaceutical University's Vision for the Future (2025–2029)

学校法人昭和薬科大学は、「独立と融和」の建学の精神のもと、第1期中期計画(2020～2024年度)を策定し、実行してきた。第2期中期計画も、「独立と融和」の建学の精神のもと策定し、2030年の創立100周年に向けて、伝統と進化を融合した「昭薬ブランド(SHOYAKU BRAND)」をさらに発展させていく。

【大学】

昭和薬科大学は「薬を通して人類に貢献」の理念を掲げ、2030年に創立100周年を迎える。本学の目的は「教育基本法及び学校教育法に基づき、広く知識を授け、人格の陶冶に努め、深く薬学に関する学理と技術とを教授研究して、社会有為の薬剤師及び薬学研究者を育成すること」であり、薬学の進展、文化の興隆、人類の福祉に寄与することを使命としている(学則第1条)。

本学は「豊かな人間性と高い倫理観を備え、創薬研究から臨床に至る薬学の幅広い分野で、医療・福祉・公衆衛生に貢献する薬剤師を育成し、6年制薬学教育と薬学研究をリードする大学になる」を目標に掲げ、社会で活躍するファーマシスト・サイエンティストを多数輩出することを目指している。

1. 教育

1-1. 学士課程における教育の質的向上

- ・ IR (Institutional Research) 解析に基づく新カリキュラムの検証とその改善方策を策定する。【教】
- ・ 医療の担い手としての人材育成強化と高い臨床実践能力を醸成する。【教】
- ・ ストレート卒業率及びストレート国家試験合格率の飛躍的な向上を目指す。【教】
- ・ 学生の能動的な学習の推進と思考力・応用力の向上を図る。【教】
- ・ 学修効果の高い授業設計を促すための FD (Faculty Development) を推進する。【教】
- ・ デジタル技術・データサイエンス教育の充実を図る。【教】
- ・ 学部学生のための短期国際交流研修プログラムを検討する。【国】

1-2. 大学院教育の量的・質的向上

- ・ 研究室配属前の1-3年次生を対象とする「研究入門」を継続し、研究マインドの早期醸成により、大学院進学率の向上を目指す。【院】
- ・ 大学院生の学修成果の可視化、学習支援及び就職支援を推進する。【院】
- ・ 大学院生の海外学会発表及び短期海外留学を推進する。【院】
- ・ 大学院生のための短期国際交流研修プログラムを新設する。【国】
- ・ 女性大学院生にとってロールモデルとなる女性研究者の講演や女性教員との交流等の機会を設け、そのキャリア形成を支援し、将来の優れた女性研究者の輩出を促進する。【院】

1-3. 入試・学生の受け入れ

- ・ アドミッション・ポリシーを定期的に検討し、望ましい入学者像を明確にする。【入】
- ・ アドミッション・ポリシーに合致した入学者を獲得するための入学者選抜(選抜方式、試験内容等)のあり方を検討する。【入】
- ・ 優秀な入学者の獲得を目指した特待生制度や入学者選抜方法を検討する。【入】
- ・ 本学の特色を活かし、入学志願者にとって魅力あるオープンキャンパスの開催方法を検討する。【入】
- ・ 入試に関する情報発信(ホームページ、進学相談会、模擬講義など)を定期的に検討し、本学の魅力を広く発信する。【入】
- ・ 法人、大学、附属高等学校・中学校が協働体制で安定的入学者確保を目的とした事業戦略を実行していく。【常】【事業】

1-4. 学生の支援

- ・ 学生が充実した大学生活を送るための支援体制の整備を教職学協働で推進する。【学】
 - 1) ハラスメントフリーに向けた取り組みを行う。
 - 2) スモークフリーキャンパスを実現する。
 - 3) アドバイザー制度のさらなる充実を目指し、再検討を行う。
 - 4) 保健室・学生相談の体制整備および充実を図る。
 - 5) 部活動等の課外活動に対する支援の充実を図る。
 - 6) 昭葉祭・体育祭のあり方を再検討する。
 - 7) 通学バスの利便性向上を目指す。
- ・ 学生の主体的な進路選択を支援するため、各委員会が有機的に連携し、薬剤師の多岐にわたる職能に対するキャリア形成支援の強化・充実を図る。【就】

2. 研究

2-1. 学内における研究推進

- ・ ハイテクリサーチ成果報告会での優秀発表賞に加えて、若手研究者に学長賞など本学の大学院生あるいは若手教員の研究を表彰するシステムを作る。【院】

2-2. 他機関との共同研究推進

- ・ 連携大学院協定を結んでいる国立成育医療研究センター及び国立医薬品食品衛生研究所、共同研究の経験のある東海大学などの外部研究機関との定期的な研究協力・人材交流を実施する。【院】
- ・ 海外からの留学生の本学への受け入れに関する制度を再検討する。【国】

2-3. 研究力の国内外への発信強化

- ・ 大学院及び大学研究欄のホームページ(英語版も)を刷新し、特色ある研究活動成果の外部への発信を強化する。【院】

3. 地域連携・社会貢献

3-1. 地域における学生の学びの推進と汎用的実践集の策定

- ・ 地域活動への学生の参画や学内行事等への周辺住民等の参画による相互交流を通して、生活者・医療人としての態度・スキルの習得を目指す。【地】
- ・ 広域連携を通して、本学の特色の周知を目指した、学生主体の科学的研究活動を発信する。【地】
- ・ 薬学部の特徴を活かした科学的な内容の講座や実験等を行う仕組みを作り、実践する。【地】
- ・ 地域における学生の学びに関する汎用的実践集を策定する。【地】

3-2. 地域活性化、地域住民の健康・福祉増進のためのプロジェクト

- ・ 町田市及び東京都住宅供給公社(JKK 東京)と連携した大型補助金の導入による官民学プロジェクトを推進する。【地】
- ・ 町田市三師会及び地域の活動団体と連携した健康予防プログラムを立案する。【地】
- ・ 本学と地域団体間の ICT を活用したネットワークの試験的運用を実践する。【地】

3-3. 薬剤師の生涯教育、特に研究力向上のための連携・協働

- ・ 研修講座受講者の本学の特色を踏まえたスキル認証制度の検討と実運用を行う。【地】
- ・ 卒業生が、地域連携センターの活動の担い手になる仕組みの創出と実践を行う。【地】
- ・ 将来の共同研究へ向けて薬剤師の研究意欲の喚起・向上に寄与する講座やセミナー等を開催する。【地】

3-4. 薬剤師の人材育成・確保

- ・ 国が掲げる薬剤師の地域偏在是正及び人員確保の政策を実現するために、附属高等学校・中学校がある沖縄県をはじめ、さまざまな自治体と協力して取り組んでいく。【常】【事業】

【附属高等学校・中学校】

昭和薬科大学附属高等学校・中学校は、1974年の開校以来、校訓である「専一集注」「堅忍不拔」の下、半世紀を超える輝かしい歴史と伝統を築き上げてきた。この歴史と伝統は、歴代の生徒や職員に脈々と受け継がれている。そして、2024年には創立50周年を迎え、沖縄県のリーディングスクールとして誇り高き「PRIDE」を胸に、さらなる飛躍を目指す。

4. 附属校の運営

4-1. 学校教育

- ・ 教育活動全体を通して主体的・個別的な学びを推進するカリキュラム編成を検討し実施する。【附】
- ・ 探究型学習やプロジェクト学習を通じて生徒一人ひとりの主体性を引き出す教育を推進する。【附】
- ・ ICT や AI を活用した授業を推進し、デジタル技術に精通し国際社会で活躍できる実践力を養う。【附】
- ・ 観点別評価について三観点（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に沿った観点）を軸とした学校統一の評価方法の検討と実施に努める。【附】

- ・ 時代の変化に対応した入試制度改革を行い安定的・継続的な定員確保に努める。【附】

4-2. 学校組織

- ・ 教職員が安心して働ける環境を向上するためメンタルヘルスケアや福利厚生の実施を図る。【附】
- ・ 教職員の各種指導力や学校運営への貢献度を公正に評価するシステムの検討を行う。【附】

4-3. 卒業生との連携

- ・ 同窓会や後援会等との連携を強化し、教育充実資金寄附金募集事業の達成に向けて連携を図る。【附】

4-4. 施設・設備

- ・ 全面改築が完了した本校舎と第1体育館の有効活用と第2体育館の老朽化に伴う修繕管理を行う。
【附】【常】
- ・ スクールバスを含めた生徒通学環境の改善と安全対策を行う。【附】【常】
- ・ 2033年の借地契約期間満了に向けて校地(借用地)の購入に努める。【附】【常】
- ・ 校務支援システム BLEND の効果的な活用を検討し実践する。【附】【常】

【法人】

私立学校法改正に伴う新たな寄附行為に則り、学校法人ガバナンスを強化し、安定した経営・財政基盤を構築していく。これにより、施設や情報インフラの整備、組織改革を推進し、自律性と独自性を保ちながら、事業計画及び中期計画に基づき施策を実行し適正な法人運営に努める。

5. 学校法人基盤整備

5-1. 健全な法人体制の維持・強化

- ・ 学校法人内部統制について定期的なモニタリングを継続するとともに、「学校法人昭和薬科大学内部統制システム整備に関する方針」及び関連規程の改善が必要な場合には、迅速かつ適切な見直しを行うことができる運用体制を構築する。【常】【事業】
- ・ 私立大学ガバナンス・コード(第 2.0 版)における基本原則を定期的に点検するとともに、実施項目に関する本学の状況を公表し、ガバナンスの改善に向けた運用体制を構築する。【自】
- ・ 内部質保証体制の充実を図るために以下の計画を実施する。【自】
 - 1)内部質保証の方針及び体制の見直し
 - 2)自己点検・評価事項の内容、実施方法・スケジュールの明確化
 - 3)検証結果を活用した PDCA(Plan; Do; Check; Act)サイクルの推進と内部質保証の促進

5-2. 教育・研究環境の整備

- ・ 中長期修繕計画に基づき、各研究室・事務室等の老朽化した空調設備を更新中であり、引き続き本館棟、研究棟(特殊室)、第 2 講義棟の更新計画を立案し、改修を進めていく。【施】
- ・ 中長期修繕計画に基づき、各研究室の老朽化したドラフトチャンバー本体の更新工事を実施中であり、引き続き各研究室、実習室の更新計画を立案し、その附帯する設備を含めて更新していく。【施】
- ・ 器具老朽化・製造中止及び省エネルギー対策(高効率器具の採用)を考慮し、各棟の照明器具LED化

の更新・改修を加速化する。【施】

- ・ 安全性確保のために外壁修繕を計画的に実施中であり、引き続き、研究棟、薬品庫等及び第2講義棟の外壁を順次修繕する。【施】
- ・ 学生の持ち込みデバイス増加に伴う自教室での通信不良を解消するため、無線 LAN アクセスポイントを増設する。【情】
- ・ 再生遅延が発生している授業収録配信システムを更新する。【情】
- ・ コンピューター演習室・学修支援室の PC、プリンター、中間モニターを更新する。【情】
- ・ 講義棟の自教室の Audio Visual (AV)設備を順次更新する。【情】
- ・ 教育・研究の基盤となる設備・装置の検討を行い、計画を立てて更新する。【庶】

5-3. 財政基盤の確立

- ・ 教育研究活動への投資と中長期的な施設・設備修繕計画を実施しつつ、経常収支差額のプラスを維持する。【経】【常】
- ・ 事業活動収入の増加、支出の見直し及び抑制を進める。【経】【常】
- ・ 分散化した資金運用を継続し、新規購入分の利回りを最大化する運用を行い、受取利息・配当金の増加に努める。【経】【常】

5-4. 広報活動を通しての本法人のブランド力の向上

- ・ ソーシャルメディアプラットフォーム等に対応した広報活動方針の定期的な見直しを行う。【広】
- ・ 受験生はじめ幅広いステークホルダーにとって魅力あるホームページや広報誌等の全面的改修を行う。【広】【事業】
- ・ 実効性ある広報活動部門の体制と整備を検討する。【広】

5-5. 2035年以降に激減する18歳人口への対応策を策定

- ・ 受験生を増やす実効性のある対応策について検討する。【事業】
- ・ アドミッション・ポリシーに沿った質の高い入学者を確保する。【事業】。

6. 昭和薬科大学100周年記念事業

歴史的な節目を迎える2030年の創立100周年に向け、未来につなげる多様で多彩な記念事業を企画・立案し、昭和薬科大学の教育・研究活動のより一層の充実を目指し邁進していく。【事業】

【教】:教務委員会、【院】大学院研究科委員会、【国】国際交流委員会、【入】:入学試験委員会、【学】:学生支援委員会、【就】就職支援委員会、【庶】庶務委員会、【地】地域連携センター、【自】学校法人昭和薬科大学自己点検・評価委員会、【附】附属高等学校・中学校、【情】情報センター、【施】施設課、【経】経理課、【広】広報委員会、【常】常任理事会、【事業】事業計画班